



平成21年2月13日

各 位

会 社 名 シンワオックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 今田 輝幸  
(コード番号 2654 大証第二部)  
問合せ先 取締役管理部門管掌 高松 浩二  
(TEL. 06-6683-3101)

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

平成20年9月11日に公表いたしました平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の通期における業績予想を下記のとおり修正いたします。また、平成21年3月期第3四半期会計期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 平成21年3月期通期業績予想の修正

(1) 連結通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円, %)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	25,339	384	166	41	0円43銭
今 回 修 正 予 想 (B)	21,948	△298	△649	△1,074	△11円51銭
増 減 額 (B-A)	△3,391	△682	△815	△1,115	
増 減 率 (%)	△13.3	—	—	—	
(ご参考) 前期実績(平成20年3月期)	26,663	△469	△672	△898	△27円24銭

(2) 個別通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円, %)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	23,535	352	130	9	0円09銭
今 回 修 正 予 想 (B)	20,449	△301	△651	△1,067	△11円44銭
増 減 額 (B-A)	△3,086	△653	△781	△1,076	
増 減 率 (%)	△13.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績(平成20年3月期)	24,885	△432	△644	△771	△23円39銭

## 2. 修正の理由

### (1) 連結業績予想の修正について

現在の金融危機の深刻化に伴う世界景気の減速は、円高・株安等を背景に、企業収益の大幅な減少、雇用環境の急速な悪化および個人消費の停滞などを招き、景気の後退傾向は鮮明化されるとともに、先行きに対する不透明感が一層強まっております。

このような状況の下、当社グループは、「新たなビジネスモデルの構築」、「事業基盤の強化」、「新たな事業軸の開拓」に向け取り組んでまいりました。その一環といたしまして、平成20年11月より給食事業を開始し、新たな事業基盤を設けることで、収益体制が構築できつつあります。当該事業は、市況に左右されにくく、安定した収益を確保できるモデルが確立されていることから、事業開始以降の2ヶ月間（平成20年11月から平成20年12月）におきましては、当初の計画どおり堅調に推移し、売上、利益共に大きく寄与いたしました。

また、卸売事業および外食・ホテル事業におきましても、一部の施策による成果が見られたほか、コストコントロールの徹底等による収益改善が図れました。しかしながら、世界的な不況に伴う消費の冷え込みの影響を受けたことにより、売上高が減少し、それに伴い営業利益、経常利益についても前回発表の予想を下回る見込みとなりました。

当社グループといたしましては、引き続き収益改善に向け取り組む所存でございますが、現状の情勢から短期的な景気回復は見込めないと判断したため、今般、業績予想を修正するに至ったものであります。

以上により、通期における連結の業績予想数値に関しまして、売上高を21,948百万円、営業利益を△298百万円、経常利益を△649百万円、当期純利益を△1,074百万円に修正しております。

### (2) 個別業績予想の修正について

主に連結業績予想と同一の要因によるものであります。

## 3. 特別損失の計上について

特別損失といたしまして、不採算店舗による閉鎖損失および固定資産の除却損として127百万円、堂島ホテルおよび不採算店舗の固定資産を対象とした減損損失として104百万円の合計232百万円を平成21年3月期第3四半期会計期間において計上するものであります。

(注) 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以 上